

## 南山大学法学部開設 30 周年 記念号に寄せて

南山大学学長 ハンス ユーゲン・マルクス

「人間の尊厳」を重んじる法学教育の実践を重ねてきた南山大学法学部は、本年度開設 30 周年を迎えました。法学部の皆さんはもとより、本学全ての教職員、学生、卒業生等とともにこの喜びを分かち合い、心から祝福したいと思います。

法学部は 1977 年、「広い教養と関連諸科学の理解に基礎づけられた法的思考の育成を目標とし、キリスト教世界観にもとづく建学の精神に立脚して人間性の涵養につとめるとともに、法を中心とした社会的諸現象の体系的研究と実践的教育を実施して、法の基礎的理論と応用に通ずる人材を養成」することを目的として設置されました。ヒルシュマイヤー学長の下で人文科学・社会科学の文化系総合大学を目指していた当時の南山大学にとって、法学部設置はかねてよりの念願でありました。法学に関心を寄せる潜在的進学希望者が多かったにもかかわらず、法学部や法経学部としては国立・私立を問わず 5 大学にしか受け皿がなかった名古屋の地においても、国際性豊かな特色ある法学部の設置は強く望まれておりました。

深い人間理解を基礎とし、問題を的確に理解・把握・分析する能力と幅広い社会性を兼ね備え、実社会の要請に法的観点から鋭く切り込むことのできる人材の育成をめざしてきた法学部は、中部地方をはじめ全国各地に数多くの法曹人、公務員、マスコミ・民間企業人等を輩出してきました。人間性豊かで社会性、正義感、利益調整のバランス感覚に長け、筋を通しつつ柔軟な思考ができるという、実社会で要請される幅広いリーガル・マインドを備え

た人材の養成という点において、南山大学法学部は確固たる独自性を確立するに至っています。教員と個々の学生とができるだけ直に接することができるよう、法学部では、すべての学年に演習科目が設けられています。1年次生向けの「ベーシック演習」、2年次生向けの「ミドル演習」、3年次生向けの「アドバンスト演習」を経て、4年次には各自が志望する卒業後の進路に応じて「法学演習」を選択します。少人数教育を通じたきめ細かな人材育成の成果は、卒業生の社会的評価が極めて高いことにも表れているといえましょう。

少人数教育を通じた学部における密度の高い基礎教育・専門教育に加え、2004年には法務研究科（ロースクール）が開設され、21世紀社会を支える高度職業人育成にも力が注がれています。模擬法廷、院生研究室、図書室、ラウンジを備えた専用の「法科大学院棟」において、法曹をめざす法務研究科生が日夜勉学に励んでおります。南山大学はキリスト教世界観に基づく教育を建学の理念とし、「人間の尊厳のために」という教育モットーを掲げてきました。21世紀の法曹に寄せられる期待、法曹が担うべき使命を考えたとき、人間の尊厳を中心に据えた倫理観や人権感覚を培い、高度な専門的技量によって社会に貢献できる人材を養成することは、極めて重要な課題です。

南山大学の特徴はその国際性にあるとして、これまでも社会の多方面の方々から高い評価を頂戴してまいりました。法学部および法務研究科から過日提出された「20年後の将来像」には、今後もしっそう国際教育を強化していくとの目標が掲げられておりました。グローバル化がますます進行し、地域社会の多文化・多民族化現象がごく日常的な光景として私たちを取り巻いている今日、異文化に通じた人材を育成し、法曹界や民間企業に送り出していくことは、本学法学部にとっても当然の使命といえましょう。

開設30周年を迎えた法学部は、独自のアイデンティティを堅持しつつ、南山大学という共同体を支えるひとつの大きな柱として、今後も魅力的な成長を積み重ねていくことと確信しております。地域社会はもとより、国際社

序 文

会においても活躍・貢献できる人材の幅広い輩出を通じ，世界に選ばれ評価される大学を目指して，今後もさらなる躍進を遂げられるよう祈念いたします。

(2007年 秋)